

# 内 科

副院長 北和彦                      診療局長 齋藤博文  
統括部長 齋藤博文

## 1. 令和3年度の目標

総合内科と救急科の連携開始：救急医療・地域医療への貢献と初期研修の充実  
専門診療の継続：消化器、循環器、糖尿病内分泌の専門診療の提供

## 2. 診療体制

外来診療は内科新患、消化器、循環器は月から金の週5日、糖尿病は火水木金の週4日、内分泌は火曜、神経内科は水曜、呼吸器内科は月木の週2日、外来診療を行った。神経内科と呼吸器内科は千葉大から非常勤医を派遣して頂いた。

入院診療と日当直は常勤スタッフ16名で分担した。日当直では千葉市夜間内科系救急2次当直を月4回程度、ならびに休日2次日直を月1回担当した。

## 3. スタッフ

副院長	北 和彦	(消化器)
診療局長・内科統括部長	齋藤 博文	(消化器・総合内科)
消化器内科統括部長	野本 裕正	(消化器)
糖・代謝内科統括部長	小林 一貴	(糖尿病・総合内科)
循環器内科統括部長	宮原 啓史	(循環器)
部長	長谷川 敦史	(循環器)
部長	太和田 勝之	(消化器)
部長	川名 秀俊	(糖尿病・総合内科・救急科)
部長	市本 英二	(循環器)
医長	薄井 正俊	(消化器・総合内科)
医長	堀江 佐和子	(循環器・総合内科)
医長	加藤 真優	(総合内科・救急科)
医長	小永井 奈緒	(循環器内科)
医長	高城 秀幸	(消化器)
医師	田澤 真一	(消化器)
専攻医	關根 優	(消化器)

令和3年3月で間山医師が退職され、4月より旭中央病院より小林一貴医師が赴任された。小林医師には内科診療と訪問診療部の立ち上げをお願いした。令和2年度より赴任していた小永井医師は本年度より循環器内科（先天性心診療部兼任）となった。専攻医は現在千葉大内科専門医プログラムのローテーションとして派遣されているが、大山医師が千葉大に戻り、東千葉メディカルセンターより關根優医師が派遣された。

以上により4月には常勤医15名+専攻医1名の体制で診療を開始したが、9月末で循環器内科堀江医師が退職され1名減で後半の診療を行った。

#### 4. 診療実績

年間の新規入院数は内科全体で2395名(月平均199.6名)であった。部門別では総合内科682(昨年585)名、消化器内科1167(昨年1245)名、循環器内科546(昨年351)名であった。令和2年は新型コロナ肺炎の蔓延で診療制限がかかる中でありましたが、当院は新型コロナ肺炎患者を受け入れつつも、感染対策を行いながら並行して通常診療を継続した結果、入院患者数はむしろ微増となった。

新型コロナ肺炎患者は第一波から入院の受入を行い、令和2年度で合計228名(成人171(妊産婦4名)、小児43)、令和3年度は合計 名(成人 (妊産婦 名)、小児 )の受入を行いました。第5波はδ株の流行で重症化した患者をICU管理することが多かったですが、本年度より増強した救急科との連携により乗り切ることができました。第6波は感染力の強いo株が中心であり、患者が急増したため、内科・救急科・小児科・産婦人科に加え耳鼻科、外科など総力戦で戦う必要がありました。各診療科におかれましてはこの場を借りて感謝申し上げます。

##### ① 内視鏡統計

		令和2年度	令和3年度
上部消化管内視鏡		1535	1613
	ポリペク/EMR	9	7
	ESD	62	57
	EVL/EIS	8	7
	止血術	27	31
	PEG	8	21
下部消化管内視鏡		1462	1835
	ポリペク/EMR	468	487
	ESD	35	36
胆膵内視鏡			
	ERCP	305	255
	(EST)	96	84
	EUS	79	62
	(FNA 関連)	14	8
気管支鏡		0	0
合計		4108	4503

##### ② カテーテル統計

		令和 2 年度	令和 3 年度
心臓			
	CAG	379	485
	PCI	154	230
末梢血管			
	PTA	3	4
	IVC フィルター	1	6
腹部			
	TACE	2	9

### ③ 手術統計

		令和 2 年度	令和 3 年度
ペースメーカー手術			
	新規植込み術	24	34
	交換術	16	19
植え込み型心電モニタ		1	1

## 5. 令和 2 年度の総括

令和 3 年 3 月をもって間山医師がご実家の診療を引き継ぐために退職されました。幸い 4 月からも週一回の専門外来は引き続き継続していただくことになりました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

総合内科は間山医師の代わりに小林医師が赴任されたため、昨年同様 6 名（斎藤、小林、川名、薄井、堀江、加藤）で初期研修医とともに診療を行った。救急科からの受け入れ体勢も順調に進み、総合内科入院は、コロナ渦ではありましたが令和 2 年度の 682 名から令和 3 年度は 650 名と横ばいであった。平日は毎朝診療開始前にミーティングを行い、毎週木曜に研修医のカンファレンスを行って研修医の指導を行った。糖尿病代謝内分泌内科は小林、間山、川名の 3 名に水曜の糖尿病外来と金曜の妊娠糖尿病外来を千葉大から非常勤医により継続して頂いた。神経内科は昨年同様水曜に千葉大から非常勤医を派遣して頂き外来診療を継続した。呼吸器内科は月曜と木曜に千葉大から非常勤医を派遣して頂き、外来診療を再開することが出来た。

消化器内科は、千葉大消化器内科からの専攻医の關根を加え昨年同様計 8 名で診療を行った。朝回診および週 2 回の早朝カンファレンスを行ない患者の検査や治療方針などを話し合った。スタッフは肝臓領域では C 型肝炎に対する DAAs（直接作用型抗ウイルス薬）や B 型肝炎に対する核酸アナログを積極的に行うとともに、肝細胞癌に対する経皮的ラジオ波焼灼療法や肝動脈化学塞栓療法も引き続き同様に行ったが、一時期と比べ症例は減少傾向である。コロナ渦ではあったが入院時スクリーニングを全患者に行い、内視鏡室の換気に留意することにより感染対策しつつ内視鏡検査を継続した。ESD（内視鏡的粘膜下層

剥離術)は、若手の指導を行い年間 93 例と昨年同等レベルの症例数でした。胆膵領域は ERCP 関連手技 300 例程度で若干減少しています。内視鏡はどうしても完全な感染管理が困難でありコロナの影響で全般に検査件数が伸び悩んだ。

循環器内科は令和 3 年度も宮原、長谷川、市本、堀江、小永井の 5 名で診療を行った。10 月より堀江医師が退職し常勤医が減少したが、カテーテルインターベンション治療件数はむしろ増加しており、急性心筋梗塞など急性冠疾患に対して迅速に対応を行った。また昨年度に導入したロータブレード治療やリードレスペースメーカー手術も順調に症例を積み重ねている。平日は毎朝病棟回診を行い、週 2 回早朝に心カテの読影カンファレンスを行った。心臓血管外科と週 1 回の朝カンファレンスも継続し、心臓手術適応などを相談検討している。

専門外来として水曜に千葉大不整脈グループの非常勤医に不整脈外来を継続して頂き、アブレーション治療の相談が可能となっている。

また、2018 年に丹羽公一郎先生(聖路加国際病院)により開始された先天性心疾患外来は、2020 年度の心臓血管外科再開に合わせて先天心疾患診療部に発展し診療体制が充実されています。

## 6. 今後の目標

循環器内科の緊急カテ、消化器内科の緊急内視鏡など地域の急性期ニーズに応えられるように救急科との連携をよりいっそう高め機能の充実をはかります。

高齢者医療については、入り口については総合内科機能を高め充実させます。出口に関しては在宅診療部を充実させスムーズな退院支援を目指していきます。

新病院にむけ、長年の課題である呼吸器内科診療の強化に向けて千葉大への働きかけを継続し、地域医療に貢献できるよう努力していきたいと思ひます。

文責	診療局長・内科統括部長	齋藤博文
	消化器内科統括部長	野本裕正
	糖・代謝内科統括部長	小林一貴
	循環器内科統括部長	宮原啓史